



『強風・大雨に対する事後対策について』

1. 水稲

- ・冠水した稲は退水後に水分を失いやすいので、葉が水面に出てからは、できるだけ新しい水に入れ替えながら排水する。また、根が傷みやすいので、排水後の水温が上昇しないように注意する。
- ・収穫が間際で、倒伏して穂が地面についているイネ（早生品種）は、穂発芽を防ぐためすぐに落水するとともに、前の株の上に穂を持ち上げるようにして、イネ株の乾燥を図る。
- ・稈（茎）の挫折したものを反対方向に起こすと折れてしまい、被害を大きくするので注意する。

2. 大豆

- ・滞水しているほ場では、根腐れを防ぐために早急に排水する。
- ・台風通過後、長雨が続く場合には、紫斑病や茎疫病の発生が増加するため、薬剤による防除を行う。

3. 果樹

- ・モモでは、せん孔細菌病を防ぐために、防除暦を参考にボルドー剤を散布する。
- ・停滞水を早急に排水し、病害の防除を徹底する。
- ・倒伏した樹は立て直し、土寄せ・鎮圧した後、支柱を立ててしっかり固定する。
- ・折損した枝は切り落とし、切り口には保護剤を塗布する。避けた部分は縄などで縛り癒合を促進する。

4. 野菜

- ・停滞水を早急に排水するとともに、支柱の補修を行い、誘引する。
- ・台風通過後は速やかにべた掛け資材等を除去し、泥などを洗い流した後、病害防除を徹底する。
- ・果菜類で茎葉の損傷が著しい場合は、果実を被害程度に応じて摘果し、着果負担を軽減する。
- ・株元の露出や土壌がしまった場合、天候が回復次第、株元へ土寄せと畝を中耕して通気性をよくする。
- ・肥料の流亡が考えられる場合は、速効性の窒素や加里肥料を追肥する。草勢の回復を図る場合は、薄い液肥の施用や葉面散布が効果的である。
- ・被害が大きく回復の見込みがない場合は、代替作物を選定して、植え替え又は播き直しを行う。

5. 花き

①施設花き（きく、ばら、カーネーションなど）

- ・施設管理については、7.施設管理共通を参照。

②露地花き（きく、りんどうなど）

- ・滞水しているほ場は、早急に強制排水する。倒伏した株は早急に起こし、支柱、ネットを補強する。
- ・滞水や強風で株元が動いた場合は、根が弱るので葉面散布を実施する。
- ・台風通過後は病害が発生しやすいので、損傷した茎葉や花を取り除き、防除を徹底する。

6. 畜産

①糞乾燥ハウス、パイプ牛舎等

- ・破損した場合、補修を早急に行う。雨水が入った場合、オガクズ等で水分調整後、切返しを行う。

7. 施設管理共通

- ・台風通過後は速やかに換気を行い、温度や湿度の低下に努める。
- ・台風通過後、農作物が損傷を受けた場合、天候の回復を待って、速やかに殺菌剤を散布する。
- ・施設内が浸水、滞水した場合は早急に排水する。